

令和 8 年度

事業計画書



学校法人 愛知享栄学園

目 次

I	はじめに	1
II	令和8年度基本方針	1
III	事業計画書		
	1. 学校法人	1
	2. 享栄高等学校	2~4
	3. 栄徳高等学校	6~10
	4. 享栄幼稚園	11~13

令和8年度事業計画

I はじめに

学校法人愛知享栄学園は、大正2（1913）年に創立、平成26年には法人分離を経て一貫して建学の精神である「誠実で信頼される人に」の理念のもと、社会に貢献できる人材育成に取り組んできた。

しかしながら、加速する少子化、新時代を迎えたAIなど社会環境は大きく変化しており、学校教育の在り方も大きな変革が求められている。将来に向かって持続可能な学園として、時代に求められる特色ある学園の教育を行うため、学園関係者が共通理解しベクトルを合わせ、期待に応えられる教育の実践を目指していく。

当学園は「スチューデントファースト」の考えに基づき、生徒・園児の成長と幸福を最優先に考えて教育活動に取り組み、未来を担う人材を育成するとともに、地域社会の発展に貢献していく。

II 令和8年度基本方針

1 基本方針

- (1) 令和8年度は、中期（概ね5年）事業計画及び中期財務計画の本格実施年度と位置づけ基本計画を着実に遂行する。
- (2) 他校との競合が激しくなる中、高等学校2校、幼稚園1園がそれぞれの魅力を高め、選ばれる学校・園として生徒・園児数の確保を行う。
- (3) 学園収入に見合った支出にするため予算管理を徹底し、人件費をはじめとした経費の適正な配分を行い財務基盤の安定化を目指す。
- (4) 環境整備については、公的補助金を最大限活用しながら生徒の安全安心を確保することを最優先に、快適な教育環境を確保すべく計画を実行していく。

III 事業計画書

■学校法人

1 私立学校法の一部改正への対応

昨年度(令和7年度)より施行された私立学校法に則った学園運営（理事会・評議員会の在り方、開催方法など）ができているか検証を行いつつ着実に運営を行う。

2 財務

- (1) 中期財務計画の策定により、経営基盤の確立を行う。
- (2) 部門別予算管理を行うことにより、職員の予算執行に対する認識を高め、優先順位に則したメリハリのある予算執行により、経費の削減につなげる。
- (3) 財務改善策の実施により、財務の健全化を図る。

3 渉外活動の強化

- (1) 中学生の進路選択には、中学校や塾における指導が大きな影響力を及ぼす。中学校における本学園に対する評価を聞き取ると同時に、学校の特色、良いところをより丁寧に説明し、共感が得られるよう工夫する。その一つとして、簡潔にまとめられ、且つ、キラッと光るスナップ写真を掲載したパンフレットの発行など、限られた財源の中での工夫を重ねていく。
- (2) 社会との緊密な連携は極めて重要であり、その活動を広く市井の人々に知っていただくことも、学園の発展に必要な活動と考えている。

そこで、例えば外部有識者によるアドバイザー会議の実施などで、「愛知享栄」のブランド化に役立つ戦略を考えるなど、これまでにない方策の検討を進める。

4 事務処理体制の改善

- (1) 導入済みの会計システムや人事システムの有効活用により業務の効率化を図る。
- (2) 外部研修の受講により個々の職員のレベルアップを図るとともに、人材の有効活用につなげる。

■ 享栄高等学校

今年度は、令和8年度からの教育課程（カリキュラム）、普通科に続く商業科・機械科の改編に向けての検討、令和7年度より手を加えたところや、更には新規事業については控えつつも、再度熟慮することとする。

1 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

教員が個々の胸中に「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切にし、自己実現を図ることができる教育を展開する。普通科・商業科・機械科の3科の特性を生かした学習の推進とともに資格取得の徹底を図る。

普通科：進学を見据え、受験生としての主体性を育む。カリキュラム改編に伴う教科指導の工夫と学力の伸長に努める。

商業科：検定・資格取得に向けて事務処理能力の向上と従来の簿記・マーケティングに加え、最近のビジネス形態（ICT、BtoCビジネス）に合う能力の向上に努める。カリキュラムの改編に伴い、時流に沿った商業教育の構築に努める。

機械科：技術者不足が進む時代を見据えた人材（技術顕彰 Jr マイスター取得）の育成に努める。カリキュラムの改変に伴い、時流に沿った工業教育の構築に努める。

(2) 自己点検と評価

ア 年5回の研究公開授業で、学内にとどまらず、私塾関係者、外部視察者からの助言や、保護者等の感想を聴取する。

イ 各学期、年度末等の研修会を通じて、テーマごとアサーティブな意見交換で自己点検を行う。

- ウ 外部研修会への参加。(県私学協会、私学教育研究所など)
- エ 学習実態調査、生徒・保護者・近隣住民による学校評価アンケートを実施し、その結果を分析参考にして学校運営・学習指導に役立てる。

(3) 学習支援の推進

学習規律を徹底し、生徒が「わかる授業」の展開と朝学習・補習・補充による基礎学力の定着を図る。

(4) 教育のレベルの向上

教員が未充足になっている教科については教育スキルの高い教員の採用を目指す。

2 生徒支援事業

(1) 生活の支援

- ア 部活動や生徒会活動の推進、生徒間のリーダーの育成に努める。
- イ 個人面談・保護者会での情報把握と情報の共有。
- ウ 教育相談室・専属臨床心理士による生徒のカウンセリング、保健室・担任・保護者との連携を図り、チームでサポートする。
- エ 奨学金制度による修学援助を図る。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ア 保護者会のほか、PTA 活動を通じての学校教育活動への理解と支援の充実を図る。
- イ Teams を活用しての生徒・保護者との繋がりを持ち、学校と保護者間のネットワークの最適化を図る。
- ウ インスタグラムの配信により、他学年や他科の活動状況に触れてもらい学校理解の一助とする。

3 教育環境の整備事業

(1) 施設設備の保守及び修繕（継続事業も含む）

- ア 普通教室の空調室外機の更新
- イ 101・102 教室の空調機器更新
- ウ 情報実習室 4 の実習機器更新
- エ 機械科 3D プリンターの購入
- オ ウェイトトレーニング機器の整備
- カ 外壁・屋根の塗装と防水工事
- キ 瀬戸グラウンドの保守・整備

(2) 公衆衛生、校内美化向上に努める。

4 地域連携・地域貢献事業

- (1) 年 3 回「土曜セミナー」実施。日頃とは違い生徒自らが学び・交流の場を計画し、地域の方々とのふれ合う機会をつくり、学校の枠を超えた学びの場を提供する。
- (2) 地域の各種文化的行事への参加。
- (3) 年 3 回の「タウンセミナー」を実施し、学校の状況報告や地域住民の皆さんのご意見を伺い学校運営の参考にする。

5 学生募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ア 6月の私立学校説明会、夏休みの体験入学会(2回)・私学展、10月下旬から12月初旬の学校説明会(6回)、2月上旬の一般入試合格保護者説明会を実施して、一方的な情報発信にならないよう保護者の声も集めて、次年度募集につなげる。
- イ 令和7年度からの入試形態変更による結果を分析する。
- ウ PV、インスタの充実と積極的なPR活動を継続する。

(2) 関係各所との連携

- ア 中学校訪問、私塾への募集活動の継続。
- イ 警察署、消防署、区役所等との地域連携の関係を継続。
- ウ 進学先及び就職先の範囲拡大を目指した情報収集と関係強化を図る。

6 進路支援事業

(1) 進路指導の充実

- ア 一番は、学習(受験)指導、社会性を身につけさせる。
- イ そのための補習・学習指導による進学支援及び各種講話や説明会による職業観の涵養と就職支援。
- ウ 卒業生の講話による意欲と意識向上を図る。

(2) 進路情報の共有化

進学・就職情報を教室だけではなく、家庭でも親子で検索確認できるよう Teams を活用する。

7 その他

- (1) 強化部及び準強化部を中心に部活動の強化を図りスポーツを通じて校名の発揚を促す。
- (2) 引き続き時流を踏まえたカリキュラム検討の継続ならびに新たなスクールイメージ構築の検討に取り組む。

■ 栄徳高等学校

1 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

【目指す将来像】

文武両道の進学校として「進化・深化を止めない学校」、「学びたい学校 No.1」を目指す。

- ア 愛知享栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓とする。
- イ 校訓を具体的に実践するために栄徳五訓を掲げ教育活動を実践し、生徒の育成に努める。

【栄徳スクールミッション】

- ア 高い目標や理想に向かって誠実に自らを鍛錬し個性を伸ばさせ、新たな価値の創造と他者から期待され、信頼できる人への成長を目指す学校

イ 生徒一人ひとりが互いの良さを認め合う豊かな人間性を育み、社会に奉仕できる生徒の育成を目指す学校

ウ 自己の能力や学力、生きる力を向上させる質の高い教育活動を通して、「夢を夢で終わらせない」個々の進路目標の実現を目指す学校

上記を実践するため、以下のようなスクールポリシーを定める。

(ア) グラデュエーション・ポリシー【このような人を育てます】

- ・「栄徳五訓」を身につけ、感謝の気持ちを社会へ還元できる生徒の育成を目指します。
- ・幅広い知識と高い学力を身につけ、目的達成のために学ぶ努力を続ける生徒の育成を目指します。
- ・主体的で協働的に問題解決する力を身につけ、自立した生徒の育成を目指します。

(イ) カリキュラム・ポリシー【このような学びを行います】

- ・進路に適した教育課程を選択して一人ひとりの夢を実現します。
- ・「^{あまがけ}天翔の時間（総合的な探究の時間）」の活動を通して、自己の在り方・生き方を考え、課題を発見・解決する学びを実現します。
- ・学校行事や部活動において、自ら進んで参加したり、他者と協働したりする活動を通して、創造的な学びや成長の機会を提供します。

(ウ) アドミッション・ポリシー【このような生徒を待っています】

- ・知的好奇心にあふれ、基礎基本を大切にする人
- ・誠実に粘り強く努力を重ねようとする人
- ・仲間と支え合って活動することを楽しみたい人

エ PDCA サイクルを機能させるため計画書、報告書、評価・改善書を提出し、管理職面談を実施する。

オ 校務分掌も含め、運営委員会をはじめとする各種会議を活性化させ、教員の共通理解のもと進学校化を目指す。

カ 生徒の主体性や協調性、思考力や判断力を育むことを念頭に置き、きめ細かな学習指導をすることによって、学力の向上と進路実績の躍進を目指す。また、総合探究の時間を充実させ将来的に総合型選抜入試を含む大学入試に備えられる土台を強化する。

キ 老朽化している校舎・体育館などの教育施設設備の拡充や修繕、また働き方改革の観点も踏まえさらなる教育力の向上のため ICT 環境を充実させ、有効活用する。

ク 新カリキュラムへの対応、教員授業力強化や知識の向上のために、各種研修を充実させ、全教職員が必要とされる教科指導力の向上や諸問題に対応できる知識向上をめざす。

(2) 自己点検と評価

ア 生徒・保護者・教職員を対象とした「学校アンケート調査」や各行事をはじめとした日々の自己点検・評価を今後も実施し、次年度の学校経営に反映させる。教科ごとの評価についても「学校アンケート調査」の中に組み入れ、自己点検と分析を丁寧に言い次年度につなげる。

イ 校務分掌組織ごとに明確な目標（できる限り数値目標）をもって業務の見える化を図り、定期的に振り返ることによって調整や改善を図る。各分掌の具体的目標の設定

は早めに行うとともに、新たな視点で業務の見直しや改善ができるような機会を多く設け、成果が確実に上がるようにする。

ウ 授業参観、学級懇談会、保護者会のみならず、日常生活の中で学校に届く保護者や生徒の声を真摯に受け止めるため、迅速な報告と正確な情報共有を行う。

エ 年度末に各分掌、各教科で年度当初の目標に基づいた総括をして次年度に備える。また、行事等においては終了後速やかに反省や改善策を出すことによって、次年度に受け継ぐ。

オ 昨今増加傾向にあるハラスメント対策として、専門家による講演や研修を行い、教職員の知識・対応力を向上させる。

(3) 学習支援の推進

ア 非常勤講師を含め教員一人ひとりが授業の大切さを十分に認識し、ICTをさらに積極的に活用して生徒の興味関心を引くような授業を展開し、生徒の学ぶ意欲を育てるとともに、各教室に設置されたプロジェクターを効果的に利用した教育を実践する。

イ 生徒一人ひとりに対して、丁寧な指導をすることにより各自が夢と目標を持つことのできる希望進路の実現を図る。また、様々な評価を丁寧に行い、生徒へのフィードバックに努める。

ウ 各コースに応じたクラス編成と教育課程の着実な実践を通して、学力の向上を図る。

(ア) コース、クラスが多岐に亘るので補習の形態をクラス単位のみならず、実情に合った講座を展開する。また ICT 教材を積極活用して理科や社会など、学力を補うための補習を強化することを目指す。

(イ) 到達度テストなどで中学校における学力が不足がちな 1 年生を対象にし、デジタル教材を活用したリメディアル講座（補習による学び直し）の効果を今年度も継続して検証する。

エ 合宿所の有効な活用方法をさらに模索し、きめの細かい指導ができるよう工夫することによって、進学実績向上を図る。

オ Super 文理クラス・選抜文理の 3 年生を対象に実施する、大学入学共通テスト及び二次試験に向けた特別時間割を改善しながら継続する。

カ 3年 Super 文理クラス及び選抜文理クラスのみならず、国際言語クラスにおいても国公立を含む上位大学への受験対策を念頭に置いた授業展開を行う。

キ 全校英単語コンテストの実施を継続し、学習に対する意欲の喚起と学力の向上を図る。(効果の検討)

ク 学習支援ソフト(Teams やスタディサプリ、ロイロノート等)を積極的に活用し、さらにデジタルコンテンツの活用を充実させ、個別のかつ着実な学習が継続的にできるように指導を行う。

(4) 教育のレベルの向上

ア 生徒一人ひとりの教育目標を明確にさせ、日々の授業実践につなげる。

イ 「大学入学共通テスト」や模擬試験など、入試の分析を各教科で行い、今後の対応について検討すると共に、思考力・判断力・表現力を育む学習指導方法の研鑽に努める。

ウ 主体的・対話的な学習方法や更に深い学びを可能にする授業研究に努め、魅力ある授業の展開を図る。非常勤講師も含め ICT を授業展開に活用し、研究授業・公開授業

の効果的な実施をはじめとした授業力の向上を図る。

エ 現職教育を通して正しい教育観を身につけ、教員としての資質と知識の向上を図る。

そのため、いじめ体罰防止講話をはじめとした全教員の研修会を計画的に実施する。

オ 初任者研修会および2年目3年目の教員研修会を毎週実施し、教師力の向上に努める。

カ グローバル化に対応するため、韓国、ニュージーランドの姉妹校との生徒交流を着実に進める。また、英語教員に留まることなく教職員の英語資格検定試験の受験を奨励するため本校独自の奨学制度を継続する。

キ 学外での研修会等への参加をすることにより、教育力向上に努め、教職員の力量を高める。

ク 教職員の資質向上を念頭に置き、経験者対象の研修を実施または外部研修や他校視察を実施する。

2 生徒支援事業

(1) 生活の支援

ア 生徒それぞれの悩みを受け止め、一人ひとりが尊重され、居場所のある学校づくりを目指す。欠席しがちな生徒に対するフォローを丁寧に行い、抱えている悩みが相談できる関係づくりを行う。

イ 新しい共生社会を尊重できる生徒を育てるため、環境、食育、男女共同参画、自殺防止等を目的とした講演会を開催する。

ウ 様々な学校行事や特別活動を通して生徒の自主性や協調性を育む。特に文化祭・体育祭における生徒の関わりを、生徒の自主性を大きく伸ばす工夫をしながら実施する。

エ きめ細かい生活指導を継続して行うことにより、県内で最もマナーの良い学校を目指す。

オ 自律心を育む教育の推進のため、生徒会を中心とした寄付活動などのボランティア活動を展開する。

カ “いじめ”の防止、早期発見のための措置、相談・支援等を迅速に行い、適切な対応を心がける。

キ 交通安全指導の徹底、性犯罪防止、サイバー犯罪防止、薬物乱用防止等、学内だけでなく社会生活を営む上での安全指導にも取り組む。

ク 年間計画に基づいた個人面談を含め、生徒の学校生活や学習指導をサポートし充実した毎日が過ごせるように努める。

ケ 不登校生徒への速やかな対応（情報共有・支援の役割分担・外部機関との連携）を行う。

コ カウンセラーを配置して、生徒が気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒の心理的な発達を援助する。

サ 外国籍の留学生を積極的に受け入れ、多様な価値観が共有できる環境づくりをする。

シ 災害時における非常食や避難体制充実のための設備設置や整備。（教職員用も含む防災キットの拡充など）

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

ア PTA 活動や保護者会、進路説明会等の様々な機会を設け、協力関係の構築に努め、

文化祭・体育祭等での生徒の日常に接することができる学校行事への参加を呼び掛ける。

イ PTA 役員会及び委員会活動(広報専門委員会、生活指導専門委員会、部活動専門委員会)を通して、保護者の方々との連携を図る。

ウ 授業参観や学級懇談を通して、保護者の方々の率直な意見を集約し反映できるように努める。特に授業参観の感想を丁寧に分析し、職員全体で授業改善に努める。

エ 保護者宛文書(教育相談の案内、図書だより、生活指導だより、保健部だより、授業料補助の案内等)を分かりやすくするとともに、メール配信を行い保護者との連絡の徹底に努める。

オ 保護者を対象にしたアンケート調査を基に、学校の改善に努める。

カ 希望される保護者には、保護者を対象とした教育カウンセリングを実施し、学校と家庭の協力の下で生徒の育成を図る。

3 教育環境の整備事業

- (1) 一人一台ノート PC が定着したのを機に非常勤講師も含めてさらなる教育環境の充実と校務・事務作業の効率化を図る。
- (2) 教員用の PHS の有効活用のため、所持・管理の徹底と定期的な保守点検を行い、効果的な通信伝達方法と録音などの機能を設置し、クレーム対応などの方法を模索する。
- (3) 校務システムを活用することによって職員室内共有デスクトップ PC から職員のノート PC へさらに移行を図ることを目指す。但し、完全移行までは利用しやすいような整備を定期的に行う。それに伴う OS のバージョンアップなどは計画的に行う。
- (4) 校務システムにより、生徒の出席管理・成績管理・各種証明書発行や生徒情報を一元的に管理し、観点別評価や情報の共有など、新たな対応を検討していく。
- (5) 安心・安全で美しい教育環境を整えるため、日常的な保守点検を着実にを行う。トイレ清掃等は引き続き専門業者に委託するとともに、必要な機器・設備などを点検・整備していく。
- (6) 雨漏りなど 40 年を超える老朽化した校舎や設備の根本的整備、修繕、修理。
- (7) 全教室の LED 化。
- (8) 職員室の拡充と整備。
- (9) 生徒用トイレの改修。
- (10) 全教室(HR 教室)に生徒用ロッカーを配備。
- (11) 体育館のみならず、全館における冷暖房設備の充実。
- (12) 脆弱なセキュリティを強化し、施錠等を一元管理できるシステムの構築。
- (13) 体育館緞帳の新装。

4 地域連携・地域貢献事業

- (1) 進路指導として実施するインターンシップを地域の企業との交流を進めることも念頭に置いて継続的に実施する。
- (2) 地域の要請に基づく学校開放(グラウンド・体育館、学習合宿所等)を積極的に行う。
- (3) 医療センターと連携し、救命講習(心肺蘇生法の習得と AED の取扱い)を実施する。

- (4) 社会福祉協力校として、地元と連携して地域主体の諸活動に積極的に参加する。
- (5) トヨタ博物館や県立芸術大学など学校周辺の施設設備の利用の促進を図ることで、日常的に互いに協力できる良好な関係づくりをする。
- (6) 地元の NPO 法人への寄付やボランティア活動に生徒が参加することで、積極的な地域貢献をする。
- (7) クリーンアップキャンペーン（清掃奉仕活動）を通して、地域への愛着と自発的な奉仕の精神を育む。
- (8) 愛知県立芸術大学との芸術文化交流事業を継続的に進める。
- (9) 吹奏楽部・ボランティア部・ダンス部・生物部他、部活動では地元との繋がりを大事にした活動を行う。

5 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ア 今年度の入学者数や成績を検証し、また来年度募集において適正な成績基準を検討し、継続的に 400 名程度の確保ができるように募集活動を行う。
- イ カリキュラムの改訂に伴いホームページの改善を検討し、本校の特色を効果的に伝える広報に重点を入れる。
- ウ 集中的に学習できる環境整備を図り、授業料軽減等の公的補助とは別に現行の本校独自の授与型の奨学金制度を効果的に利用するなど様々な方策を模索し、とりわけ特進クラスの推薦で受験者数及び入学者の増加を図る。
- エ 文化祭等の行事に近隣の中学生を招待し、生徒の活気や温かさをアピールする。学校見学会等においては、教員によるパワーポイントの資料やビデオ等の作成だけでなく、生徒自身が話したり活躍する場を積極的に設けて、学校の魅力を伝える。
- オ 中学生や保護者を対象とした学校見学会や説明会の他に、学習塾対象の学校説明会を学外会場を設けて実施し、本校の魅力や特色、教育内容を広く紹介していく。
- カ 学校説明会へ参加できなかった生徒で急遽本校への進学を検討している生徒のための個別相談会を引き続き実施する。
- キ 学校行事や各説明会に参加した生徒への最大の励ましと事後フォローを大切に、面倒見の良さをアピールする。

(2) 関係各所との連携

- ア 中学校・塾だけでなく競合相手となる他の高校の情報データをできる限り速やかに収集し、把握・蓄積した情報分析から戦略的な募集活動を行う。
- イ 中学校との連携は広報職員による在校生の詳細な近況報告のほか、本校の様子を綴ったミニ新聞を作成し、配布することで教育活動の理解を求める。
- ウ 中学校・塾との連携は単にそれぞれの説明会の参加者を主眼とするだけでなく、生徒と直接関わっている担任や塾講師との関係を緊密にしていく。
- エ 帰国子女を含めた多様な生徒の受け入れを見据えて、関係各所との連携を密にする。
- オ 長久手市・警察署等と連携して取り組む教育活動を新聞社等に積極的に PR する。
- カ 地元のケーブルテレビをはじめとするメディアと連携を図り、部活動やその他の

教育活動を放映してもらおう。

キ 放送部の製作した YouTube 動画を広報し、本校の広報活動の一助とする。

6 進路支援事業

(1) 進路指導の充実

ア 自己実現のための進路観や職業観を育成し、進学・就職指導を具体的に推し進めるために、「進路の手引き」の内容の再点検と充実を図る。

イ キャリア教育を推進するためにインターンシップを実施し、職業を体験することで社会に対するものの見方を養い、進路意識と学習意欲の向上を図る。

ウ 国公立大学 50 名の合格を目指し、基礎基本の徹底と最後まで受験を諦めない姿勢を育てる。そのために個々の生徒が抱える問題に適切に手を差し伸べ、モチベーションが継続するような指導方法を検討する。

エ 進学クラスにおいては、スクールタクトを利用しながら総合探究の充実を図ることにより総合型選抜入試に対応する力もつける。

オ Super 文理クラスでのクラス単位の進学補習（特別時間割対応も含む）と、講座制進学補習を併用し、また合宿所を有効活用し、効果的な進学補習体制を確立するとともに進学実績の向上に努める。

カ 各補習においてスタディサプリ等オンライン教育を充実させる。

キ 大学・短大・専門学校ガイダンス、キャンパスライフ体験学習等の進路行事を利用して、進学に対するモチベーションを高める。

ク 大学との高大連携プログラムを再構築して、大学の教育研究に触れる機会を促進し、大学で学ぶ意義の理解を深め、進学指導・学習指導に役立てる。

(2) 進路情報の共有化

ア 学校としての進路指導方針を、担任が良く理解して進路指導に臨めるように、進路指導部が中心となり、学年との連携を密にする。

イ クラス・コースごとの生徒情報と入試情報を、担任と担当者だけではなく学年全体・学校全体で共有し、検討することで進路目標を達成することに努める。

ウ 学年ごとの進路ガイダンスを実施し、生徒に的確な進路情報を提供する。

エ 保護者を対象とした進路説明会を実施し、進路情報を提供するとともに家庭での進学支援を求める。

オ 基礎学力診断テストや到達度テストの分析及び検討会を実施することにより、生徒の学力の現状と問題点を洗い出し、学習指導に反映させる。

カ 入試研究会等に参加したり、大学教授や塾講師を招き講演を実施し、最新の入試情報を生徒・保護者に提供し、生徒の学力向上の一助とする。

キ 現在生徒が受験している模試の活用状況を再度検証するとともに、本校の生徒のニーズに応じた模試受験の在り方を見直す。

7 その他

昨今校内でも起きている保護者にかかわるトラブルに対応するため、顧問弁護士との連携を密にし、スクールロイヤー的な立場で関わられるように態勢を整える。

■享栄幼稚園

1 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げている本園は、この理念に基づく教育方針、重点目標を発達段階に応じて取り組んでいく。その中で、集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力の5つの力を育てるため、計画的な指導をする。特色として取り組んでいる行事に必要なスキルである音楽、絵画、運動面など資質の向上を図っていく。また、子どもたち、保護者、地域から信頼され親しまれるよう全教職員の資質向上のため日々研鑽努力する。

(2) 自己点検と評価

評価項目（チェックリスト）に沿って学期毎に自己点検、自己評価を行い教師自らが客観的に指導や関わりを省みる。公開保育を行い、保育内容、指導方法などお互いの姿を見て意見交換や確認などを行い、より良い保育を行えるよう研鑽していく。そして保育環境や保育教材、素材についても工夫しながら学び続けていく。

(3) 学習支援の推進

- ア 絵本などの蔵書を増やし、本にふれる機会を増やす。貸し出し絵本の充実を図り、家庭での読み聞かせや絵本の時間を通して楽しい子育ての後押しをする。
- イ 生活環境の公衆衛生の更なる向上と施設のメンテナンスに努める。
- ウ 課外教室を充実させ、園外の「JA 愛知ドームドッジ in ナゴヤ大会」優勝を継続していきたい。

(4) 教育のレベルの向上

- ア 教員自身が最大の教育環境であると、一人ひとりが自覚し日々の研鑽に努める。
- イ 外部講師による園内研修、外部研修への参加や他園との合同研修会の実施。
- ウ 公開保育を行い、指導方法などの見直しや確認を行う。保育の質を高めるとともに幼児理解を深めていき、スキルアップを図る。

2 園児支援事業

(1) 生活の支援

- ア 子どもの家庭環境、生活環境を把握し、一人ひとりの理解を深める。特別支援の必要性がある場合は園医や臨床心理士と相談しながら支援を考えていく。
- イ 月に1度、育児相談の場を設け、保護者の支援もしていく。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ア HP やメールマガジンを有効活用し、園だより、クラスだより、保健だよりを含め園からの発信を出来るだけ多くし、園の教育活動と子どもの様子を詳しく伝えていく。
- イ 保護者の方々に子どもたちの行事に出来るだけ多く参加いただけるよう広報や声がけをしっかりと行い、園の保育内容や行事の理解に繋げる。
- ウ HP の更新作業が遅れることがあるため、運営会社の変更も考え迅速に発信して

いく。

3 教育環境の整備事業

- (1) 幼稚園南館を活用し、未就園教室と課外教室の充実にむけて、門の修繕とエアコンの修理もしくは新調を検討する。
- (2) 園庭で安心して戸外活動ができるよう、けやきの枝を剪定し安全確保に努める。

4 地域連携・地域貢献事業

月2・3回の親子教室や園庭開放で、近隣の方との交流、保護者同士の子育ての悩み、情報交換の場を提供する。

5 学生募集・入試に係る事業

(1) 園児募集活動の強化

- ア HPによる情報発信を行い、園の様子を幅広くお知らせする。現在情報のほとんどがSNSで広がっていることから、新しい取り組みとしてSNSを始めていきたいと考えている。
- イ 6月から見学会、説明会、個別見学を行い次年度の園児募集を計る。10月受付とする。さらに、7月には「みんなの広場」を開催、8月には「幼稚園のお友だちと遊ぼう」の会を開催し、幼稚園の雰囲気を実際に感じ、教職員や在園児と親しむ1日にする。保護者に対しては相談コーナーを設け質問や悩みにこたえる場も設ける。
- ウ 募集に最も重要である未就園児教室の募集にも力を入れ、より魅力ある教室にしていくとともに、それを発信していく。こちらは9月に見学会、説明会を行い11月受付とする。状況に応じては見学会、説明会を早めることも検討していく。
- エ 送迎バスは園の顔でもあり、認知してもらうためのツールとしても重要であり、お知らせ等も貼って広く認知してもらう。

(2) 関係各所との連携

- ア 問題を抱えている子どもが増えていることから、問題に応じて専門家の意見をもとに対応していく。
- イ 園医、心理学博士、時には児童相談所等の連携を密にして、こどもの安全と幸せの確保に努めていく。
- ウ 警察署、消防署の方々の協力を得て、安全の行動するための意識を育てていく。

6 進路支援事業

(1) 進路指導の充実

幼保小近隣の学校との交流する機会を設け、新入学への思いをもたせる。

(2) 進路情報の共有化

- ア 幼・保・小連携の推進のために支援のあり方を検討する。
- イ 幼・保・小連絡会会議にて入学前に個々に育ちの様子伝えていき、学校からの話も伺い新しい学習環境への準備の助言をする。
- ウ 地域の小学校を訪問し、遊びに行き学校に親しみをもち、不安のないようにしていく。

7 その他

- (1) リーダー会を中心に、園の改革を教職員一同で取り組む。
- (2) 園舎の環境を十分に活かした享栄幼稚園の教育ビジョンを構築していく。
- (3) 園舎に合わせた防災・防犯態勢を整える。
- (4) 園庭整備と熱中症対策の日よけ設備を整備する。

以上